東京都家庭薬工業協同組合会報

かていやく

平成22年7月　通巻87号

ワタスゲの群生

かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款　第1章　第1条(目的)より

目　次

通巻87号　2010年7月23日

組合役員の改選について　3

副理事長就任にあたって　4

特集
健康情報が満載 **ホームページがおもしろい！** Part1　5

豆知識（大草薬品株式会社）、ノロウイルス感染防止対策（株式会社オーヤラックス）、綜合療法（株式会社恵命堂）、ひとみすこやか.com（参天製薬株式会社）、おなかの悩み相談室（大幸薬品株式会社）、なるほど情報（玉川衛材株式会社）、未病とは（養命酒製造株式会社）、のど研究室（株式会社龍角散）、ロートくらぶ（ロート製薬株式会社）、絵で見てわかる胃腸の話（わかもと製薬株式会社）、生薬の知識（株式会社太田胃散）、生薬のはなし（救心製薬株式会社）、生薬ご紹介（信州製薬株式会社）

家庭薬共同販促企画　10

家庭薬ロングセラー物語／**ササヘルス**　12

「セルフメディケーションとOTC医薬品」の意識調査アンケート（第２回）の結果　14

第10回 JAPANドラッグストアショー　16

委員会だより　17
総務、薬事、GMP、流通、厚生、労務、IT（情報技術）、
消費者対応、情報協業化、広告統計資料、広報誌

速報 家庭薬ロングセラーの秘密―昔も今もこれからも"日本の元気"を守る家庭薬
全国の書店にて６月に発売　23

事務局だより　24
編集後記

表紙題字／第４代理事長　津村重舎
表紙写真／救心製薬㈱ 代表取締役社長　堀　正典

組合役員の改選について

5月25日開催された第63回通常総会において任期満了に伴う理事・監事の改選があり、18名の理事および2名の監事が決定されました。理事の交代はありませんが、町田美香子氏が新たに監事に選出されました。新理事による臨時理事会において堀理事長、風間副理事長、牧田副理事長、太田副理事長および新たに塩澤太朗氏が副理事長に選出され、定款に規定する4人の副理事長体制になりました。

この結果、新役員は以下のとおりです。何とぞご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

▲第63回通常総会

東京都家庭薬工業協同組合役員一覧

＊は新任

相談役	太田　昭 株式会社太田胃散／会長		
理事長	堀　正典 救心製薬株式会社／社長		
副理事長	風間　八左衛門 株式会社ツムラ／顧問	牧田　潔明 わかもと製薬株式会社／会長	太田　美明 株式会社太田胃散／社長
	塩澤　太朗＊ 養命酒製造株式会社／社長		
理事	堀内　邦彦 株式会社浅田飴／社長	今川　拓一 イチジク製薬株式会社／社長	宇津　善博 宇津救命丸株式会社／社長
	山﨑　充 株式会社金冠堂／社長	柴　賢悟 株式会社恵命堂／社長	渡邊　康一 三宝製薬株式会社／社長
	大泉　高明 株式会社大和生物研究所／社長	玉川　幸彦 玉川衛材株式会社／社長	宮川　修作 株式会社東京甲子社／社長
	鈴木　國之 株式会社トクホン／相談役	原澤　純一 原沢製薬工業株式会社／会長	竹内　彪衛 株式会社山崎帝國堂／社長
	藤井　隆太 株式会社龍角散／社長		
監事	喜谷　和夫 株式会社キタニ／社長	町田　美香子＊ 町田製薬株式会社／社長	

副理事長就任にあたって

東京都家庭薬工業協同組合
副理事長　**塩澤　太朗**

このたび、去る5月25日に開催されました理事会におきまして、ご出席理事皆様のご賛同をいただき、副理事長の重責を担うことになりました。

私は、ちょうど10年前の平成12年6月より、家庭薬業界に入りまして、東京都家庭薬工業協同組合（以下、東家協）の理事も今年で10年になります。その意味ではこの業界としては新参者であり、多くの先輩諸氏のご支援をいただきながら、堀理事長様の補佐役として、何とか重責を果たしてまいりたいと考えております。

さて、現時点における業界を取り巻く環境は、申し上げるまでもなく、混沌を極める難しい事態が出来していると言わざるを得ません。昨年6月施行されました新薬事法の目的の一つは、増え続ける国民医療費に歯止めをかけることだったわけですが、結果はどうだったでしょうか。平成20年度以降の国民医療費については、いまだ公表されていませんので、軽々な物言いは慎むべきですが、昨年が初年度とはいえ良い結果が得られたと言えるのでしょうか。新型インフルエンザの流行という不幸な事態が起きたこともあり、やむを得ない部分もあるとは思いますが、第一類医薬品の混乱を見るにつけ、理想と現実の間に大きなギャップがあるように見えるのは残念なことです。

斯様な事態の中で、東家協の今後を考えていくことになるわけで、責任の重さを痛感いたしております。

先を読むことは、いつの時代においても困難ではありますが、日本においては今現在、確実に予想できる事態があります。それは「少子高齢化および人口減少社会」という新しい社会的枠組みの出現でしょう。この新しい社会的枠組みの出現は財政赤字の増大に直結する極めて困難な事態で、先進諸国の中で日本が真っ先に経験するものです。この難題にいかに答えを見つけていくかが国民すべてに問われており、従ってわが東家協も何がしかの行動を起こしていくべきだと考えています。

ともかく東家協としては、前述した新薬事法の実施が良い結果を生む方向で全力をあげて努力していくことは言うまでもありませんが、それと並行して我々業界として独自にできることも模索すべきであると考えます。国立人口問題研究所の世帯数推計によると、75歳以上の「一人住まい」世帯は、2010年250万世帯、10年後の2020年には342万世帯に増加すると予想しているように、「寂しい高齢者」が急増していきます。この問題は少子高齢化社会をより深刻なものにするのではないでしょうか。家庭の常備薬を本文とするわが家庭薬業界としては、この問題に何とか対応できないものかと漠然と考えています。

「少子高齢化および人口減少社会」への対応は、無論一業界の力でできるものではありませんが、高齢化社会への対応だけは何とかしなければと焦りにも似た思いを募らせております。無論業界として他にも対応せねばならない問題は多々あるとは思いますが、副理事長就任のご挨拶にあたって、思うがままに述べさせていただきました。今後とも会員の皆様のご支援をいただきながら、副理事長の重責を果たしてまいりたいと存じますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆になりますが、会員皆様のますますのご繁栄と当組合のご隆昌を衷心よりお祈り申し上げまして、簡単ですが私の就任のご挨拶とさせていただきます。

（養命酒製造株式会社　社長）

特集

健康情報が満載

ホームページがおもしろい！

Part 1

東京都家庭薬工業協同組合の組合員のホームページには、商品や会社の紹介だけでなく、健康に役立つ情報を生活者に対して提供している。その情報の中には、女性や子どもにターゲットを絞った内容のものもある。ホームページの構成はさまざまで、動画やチェックシートを使ったり、メールマガジンを配信したりと、工夫を凝らしている。

そこで、組合員が生活者に提供している健康情報のホームページを２回にわたって紹介する。

豆知識——http://www.okusa.co.jp/mame.html

大草薬品株式会社

かぜや夏バテといった身近なことから過敏性腸症候群、女性更年期といった最近注目されている話題まで、知っておきたい健康のための豆知識が豊富に紹介されたホームページ。豆知識だけでなく、腸や骨の健康をチェックできるコーナーもある。

主な内容

- 過敏性腸症候群
- 女性更年期
- 乳酸菌のお話
- 風邪のお話

健康情報サイト

ノロウイルス感染防止対策—http://www.oyalox.co.jp/c/c05_f.html

株式会社オーヤラックス

従来から下痢や食あたりの原因として存在していた「ノロウイルス」。冬の到来を感じるころからノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒の発生事例が多く報告され、時には大規模な集団発生の事例も報じられている。このホームページでは、病院、高齢者施設、保育施設、宿泊施設、給食施設、飲食店、家庭などで実践できる感染症予防対策などを紹介している。

主な内容

- ノロウイルスの特徴
- 感染経路
- ノロウイルスの感染を防ぐ衛生管理
- ノロウイルス対策にピューラックス

健康情報サイト

健康情報サイト

綜合療法—http://www.keimeido.co.jp/sogoryoho/index.html

株式会社 恵命堂

綜合療法とは食、心、体、息、胃腸を調和させること。私たちの健康は、食物、心理、運動、呼吸、胃腸の働きの5つの要素がうまく調和して、初めて維持できる。どれか1つでも異常をきたすと小さなトラブルを起こし、次第に全身に広がって、重い病気につながることがある。このホームページでは、東洋医学の考えに基づいた綜合療法を紹介している。

主な内容

- 綜合療法・食
- 綜合療法・心
- 綜合療法・体
- 綜合療法・息
- 綜合療法・胃腸

健康情報サイト

ひとみすこやか.com—http://hitomi-sukoyaka.com/

参天製薬株式会社

参天製薬の豊富なアイケア情報が満載のホームページ。「目の充血」や「疲れ目」など、よくある目の症状について、原因からケア方法までを紹介した記事、「ものもらい」や「感染性結膜炎」など、目の病気についてわかりやすく解説したコーナーがある。さらにホームページから、キャンペーン情報も配信されている。

主な内容

- 目の健康コラム　季節のおすすめ情報
- 目の症状&病気
- 目の不思議
- 知って納得　目薬Q&A

健康情報サイト

おなかの悩み相談室—http://www.seirogan.co.jp/fun/stomach/index.html

大幸薬品株式会社

突然やってくるおなかの痛みはつらいもの。そこで、「おなかのエキスパート」である大幸薬品が、おなかのトラブルと対処法を症状別に紹介。このほかにも「おなかにいい食生活」「おなかのQ&A」「今日のあなたの"うん"ちぇっく」などのおなかに役立つ情報が収載された「おなか情報局」がある。

主な内容

- おなかのトラブルと対処法
- おなか情報局
- この時季のおなかのトラブルにご注意！
- ストレスとおなかのトラブル

なるほど情報—http://www.tamagawa-eizai.co.jp/naru/index.html

玉川衛材株式会社

「なるほど、なるほど」と納得できる、さまざまな分野の情報や豆知識を満載しているホームページ。例えば、食中毒の予防、傷の処置方法、マスクの豆知識といった身近な情報を写真やイラスト、動画を使って解説している。マスクの製造工程の動画が見られるのもその一つ。楽しみながら見て、「なるほど」と知識を深めることができる。

主な内容

- 食中毒予防
- 傷の処置方法
- マスク豆知識
- 花粉対策

健康情報サイト

未病とは—http://www.yomeishu.co.jp/yomeishu/health/

※平成22年7月1日より、ホームページがリニューアルされました

養命酒製造株式会社

漢方医学の病理概念の中に"未病"という言葉がある。未病とは病気というほどではないが、病気に向いつつある状態のこと。健康診断を受けて、検査で異常がなくても、手足の冷えや体の疲れ、胃腸の不調といった自覚症状があれば、未病のサインかも。このホームページでは、未病のことや未病になった時の対処法などを紹介している。また、養命酒に含有されている生薬を解説している「生薬と薬酒のなるほど事典」などがある。

主な内容

- 未病について詳しく知る
- 未病の実態
- 気になる病気と症状
- 養命酒の効いていく仕組み

健康情報サイト

のど研究室—http://www.ryukakusan.co.jp/kenkyu/jiten/jiten.html

株式会社 龍角散

のどに関するありとあらゆることを日々研究している龍角散。「のど研究室」では、のど薬の形と効き目の関係や、薬の成分や特徴について詳しく紹介しているだけでなく、デリケートなのどを守るために知っておきたいことや、のどに関する雑学を紹介している。また、「のどのお薬・生薬まめ辞典」では、薬の形と特徴・用い方の注意、生薬を詳しく解説している。

主な内容

- もの知りのどコラム
- のどの症状あれこれ
- のどの薬・生薬まめ辞典
- のどの病名専科

健康情報サイト

健康情報サイト

ロートくらぶ—http://www.rclub2.rohto.co.jp/

ロート製薬株式会社

「ロートくらぶ」はロート製品を愛用している人に感謝をこめてつくられた、健康に役立つ情報や楽しいサービスを提供するホームページ。ロートくらぶ会員には毎月豪華な賞品が当たるプレゼントキャンペーンやポイント制度など、たくさんの特典がある。ポイントはロート製品を購入するごとに貯まり、ポイントに応じてもれなく賞品と交換できる。登録は無料。

主な内容

- 元気が出るからだのWeb
- ロートCFライブラリー
- ゲームやパズルであそぼう!アミューズメント
- インターネットで井戸端会議!!
  ロートくらぶ★ふぉーらむ

健康情報サイト

絵で見てわかる胃腸の話—http://www.wakamoto-pharm.co.jp/health/sstory.html

わかもと製薬株式会社

私たちが食物を食べると、口に始まって、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門を通って消化される。そして栄養分が吸収され、最後には残りカスが便となって排泄される。消化管は、胃、小腸、大腸などそれぞれの場所で、仕事を分担して食物の消化吸収を果たし、どこか一カ所が故障しても、大きな支障が生じる。このホームページでは、消化管の働きと、その消化管を元気に保つノウハウを紹介している。

主な内容

- はじめに
- 消化管の主な働き
- 胃の話
- 大腸の話

漢方・生薬サイト

生薬の知識—http://www.ohta-isan.co.jp/03knowledge/index.html

株式会社 太田胃散

ゲンチアナ、チョウジ、ケイヒなど太田胃散に含まれている20種の生薬を紹介したホームページ。ホームページには生薬だけでなく、原植物の写真も掲載されている。他にも胃腸の疾患などを紹介したコーナーがある。

主な内容

- ゲンチアナ
- ニガキ
- チョウジ
- ウイキョウ

生薬のはなし—http://www.kyushin.co.jp/herb/

救心製薬株式会社

生薬は変質しないように乾燥したり、使いやすいように大きさをそろえたり、形を整えるなど簡単な加工をしたのち、薬として用いられている。このホームページでは、救心に含まれている生薬の歴史や作用について、写真やイラストなどを使って詳しく解説している。

主な内容

- 麝香（ジャコウ）
- 牛黄（ゴオウ）
- 蟾酥（センソ）
- その他の生薬について

漢方・生薬サイト

生薬ご紹介—http://www.shinshu-seiyaku.co.jp/syoyaku/index.html

信州製薬株式会社

生薬は、動植物や菌類、鉱物などから得られる天然由来の薬物のこと。単体でも効果があるが、組み合わせて用いることで相乗効果が期待される。このホームページでは、パナックス・ケイギョクに配合された7つの生薬を紹介している。

主な内容

- 薬用人参（ヤクヨウニンジン）
- 生地黄（ショウジオウ）
- 蜂蜜（ハチミツ）
- 麦門冬（バクモンドウ）

漢方・生薬サイト

家庭薬共同販促企画

富士薬品グループ 家庭薬フェア

流通委員会

平成22年2月、流通委員会を中心に組合員等13社は、全国の富士薬品グループ・企業14社の779店舗において家庭薬フェアを行いました。これは、家庭薬メーカーと販売店がタイアップし、より効果的に消費者の家庭薬の認知向上と売り上げアップを図ることを目的に行った共同販促企画事業です。

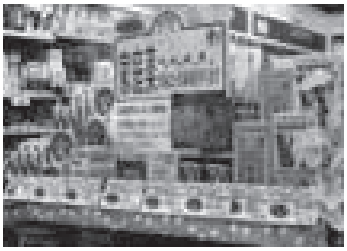
期間中、各店舗では参加メーカー13社の定番の15商品を対象とした通常の5倍のポイントの付与、また本企画内容の周知を図るため、チラシの配布、店舗内でのポスター設置、対象商品ごとにPOPを用いての告知等を積極的に展開し、同時に参加店舗のコンクールを実施しました。

この結果、実施期間は2月1日～28日の1カ月間でしたが、通常低迷する冬季にもかかわらず売り上げ前年度比が105%で推移するなど、家庭薬メーカーが共同で企画した本販促活動は極めて好評裏に終了しました。

第2回目の実施について引き続き検討を行っています。

参加会社（50音順）

㈱浅田飴	㈱アラクス	イチジク製薬㈱
㈱太田胃散	救心商事㈱	大幸薬品㈱
㈱ツムラ	㈱東京甲子社	㈱トクホン
養命酒製造㈱	㈱龍角散	わかもと製薬㈱
和光堂㈱		



一本堂様とのコラボレーション

情報協業化委員会

一般用医薬品の需要は景気低迷等を背景に引き続き伸び悩み、昨年6月に新販売制度が施行されましたが、いまだ一般用医薬品の新たな需要拡大の効果は見られていません。家庭薬は固定客が多く景気低迷でも影響は比較的少ないといわれますが、新たな若年客層の掘り起こしが課題となっています。

情報協業化委員会は、委員会社8社を中心に本年4月の1カ月間、本年創業100年を迎える株式会社一本堂様の全店(42店舗)で、歴史と伝統のあるドラッグストアと家庭薬のコラボレーションをコンセプトに「安心・安全のセルフメディケーションの推進」を実施しました。今回の企画は、準備段階および販促期間中のさまざまな要望に対する参加メーカーの迅速な対応や広報戦略を試み、共同販促事業の実証を目的に行ったものです。

店舗店頭での期間中の共同販促品の売り上げは前年度比300%を記録し、終了後も160%を維持するなど多大な成果が見られました。

具体的には各社製品を陳列棚に一斉に並べ、一般家庭の常備薬としてのステータスを来店者に効果的に訴えました。販促対象製品の情報強化を図るため、3月には各店舗の店長・薬剤師や店員向けの勉強会に参加各社から講師を派遣し、各製品の特長や販売方法等について情報提供を図りました。このことが来店者に安心して家庭薬を購入していただくことにつながったと思われます。購買者に用意した各社提供のアメニティーグッズが期間中に不足し、各社があらためて準備する等本企画は好評で、また『日経産業新聞』や薬業雑誌や専門誌に大きく紹介される等各方面で関心を集め、注目されました。

参加会社(50音順)

宇津救命丸㈱	三宝製薬㈱	㈱東京甲子社
長野県製薬㈱	㈱山崎帝國堂	ユースキン製薬㈱
㈱龍角散	わかもと製薬㈱	

家庭薬ロングセラー物語

ササヘルス

株式会社 大和生物研究所

●サプリメントの先駆けとして

創業者の大泉和也(おおいずみかずや)は太平洋戦争中、静岡県にあった醸造会社で、海軍に納める潜水艦乗務員用の栄養強化食品の開発と製造に関わっていたといいます。潜水艦はどこにも寄港せずに、洋上を数カ月進むこともあったといいます。冷蔵庫のない当時では生鮮食料が不足し、ビタミンB群やビタミンCが欠乏して、脚気になったり壊血病になったりすることも珍しくなかったといいます。今では信じられませんが、脚気や壊血病は重度になると死に至る病です。海軍ではこれを予防するために、ビタミンB群やビタミンCを入れたシロップ状の栄養補助食品を乗組員に飲ませたのです。今でいう、健康食品やサプリメントの先駆けともいえるかもしれません。

しかし、太平洋戦争が末期になると、それまで南方から国内に入ってきた原料がほとんど入らなくなってしまいます。そこで和也はそれまで廃棄されていたり、利用されなかったりしたいろいろな未利用資源を調べ、原料にする研究に着手します。例えば、グラジオラスという花の茎の下の方や根から、ある程度のビタミンCがとれることを発見したりしました。

●未利用資源「クマ笹」に着目

終戦を迎えると和也の勤務先だった海軍の指定工場は閉鎖になってしまいます。戦後しばらくは製糖会社に勤務していましたが、間もなく有志とともに、クマ笹を原料にして、当時需要が高かった葉緑素(銅クロロフィリン)を製造する技術を開発し、事業化します。クマ笹は物資が極端に不足した戦後間もないころでも、誰にも着目されることなく、むしろ林業では植林の邪魔者とされていました。このクマ笹に着目したのは、戦時中の未利用資源の開発に起源があったのかもしれません。この技術は後にササヘルスの製造に応用されることになります。この当時の葉緑素の一般的な製法は、国内で大量に出る蚕糞(絹糸をつくる蚕の幼虫が、桑の葉を食べた後に排泄する緑色の糞)から有機溶媒で葉緑素を抽出、精製して置換処理したものでした。この製法は揮発性の溶媒を大量に使うため、設備に大きな資金が必要で、安全性にも問題がありました。

和也たちが開発した製法は、有機溶媒を使わず水系から抽出するもので、危険で高価な有機溶剤も不要で、簡単な設備で製造することができるというメリットがありました。しかし反面、この製法では葉緑素の純度がなかなか上がらず、市場での評価は芳しいものではありませんでした。このため、この事業は起業から数年を経て事業を清算せざるを得なくなりました。

●ササヘルスの開発の歴史

クマ笹から葉緑素を抽出する事業は失敗に終わりましたが、債権者から長野県茅野市にあった工場跡をもらい受けた和也たちは同じ技術

◀クマ笹の調査
(昭和30年代)

笹刈りの風景▶

を使って、今度はクマ笹の医薬品を製造する事業に乗り出します。クマ笹は中国の古典的薬のバイブルともいえる「本草綱目(ほんぞうこうもく)」に箬(じゃく)として掲載され、同じ古典の「神農本草経(しんのうほんぞうきょう)」にも竹葉(ちくよう)として掲載されており、いろいろな疾患に効果があると記されていました。クマ笹の医薬品の開発には、これらがヒントになったようです。

1968年(昭和43年)、新たに大和生物研究所を設立した和也は、これまでの銅イオンを用いた葉緑素の安定化技術を一新、技術的に困難といわれた鉄イオンを用いた製法の開発に成功します。翌年、厚生省(当時)から、この日本初の技術を用いたクマ笹の医薬品として、ササヘルスが承認されました。

▲旧ササヘルス

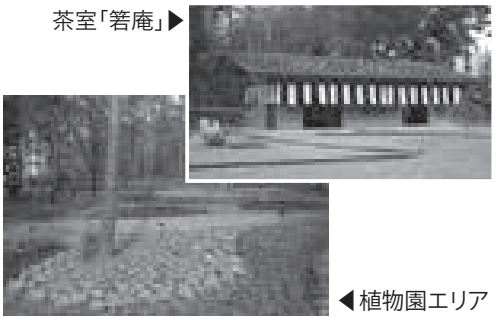
●緑健会の設立

ササヘルスの発売当初は、卸を通して薬局・薬店などに販売していました。しかし、二代目社長大泉高明は、「ササヘルスに関する情報が末端まで正確に伝わってこそ、製品の本当の良さがお客様に理解される」との考えから、直販体制を整備し、1989年(平成元年)に販売店の全国組織である緑健会(りょっけんかい)を設立。これが機会となり、ササヘルスは少しずつ世の中に認知されるようになっていきます。

●オンリーワンの象徴「㈶蓼科笹類植物園」

笹に関するナンバーワン、オンリーワン企業を目指す大和生物研究所では、その象徴として長野県茅野市にある蓼科工場の敷地内に「蓼科笹類植物園」を併設しています。この植物園には国内外の笹120種以上が植えられており、世界一のコレクションを誇っています。植物園は全体が回遊式庭園となっており、遊歩道沿いに120種以上が植えられた植物園エリア、茶室

茶室「箬庵」▶



◀植物園エリア

「箬庵(じゃくあん)」、待合「竹風軒(ちくふうけん)」、降り蹲(おりつくばい)「随月泉(ずいげつせん)」、梅見門などがある数寄屋庭園エリア、ゼロエミッション(廃棄物ゼロ)の取り組みとして、クマ笹の搾りかすなどの廃棄物を農業利用するための実験を行う圃場として、また植物園にアクセントを与える景色としての実験圃場エリアで構成されています。この3つのエリアは独立しておらず、有機的に結合し、笹の幅広い可能性を探求する場となっています。

2009年、蓼科笹類植物園は竹笹類の科学的、文化的研究を通して社会や地域に資するため、財団化されました。一般公開後は静岡県の富士竹類植物園と姉妹園になる予定です。

ササヘルス

●効果・効能

疲労回復、食欲不振、口臭、体臭除去、口内炎

●用法・用量

通常1日3回、1回約2～3mL(小児半量)を冷水、茶、牛乳等で適当に薄めて服用。なお、症状により適宜増量

●成分…クマザサの葉の抽出液

「セルフメディケーションとOTC医薬品」の意識調査アンケート（第2回）の結果

平成21年9月18日（金）～19日（土）、JR新宿駅西口イベント広場において開催した啓発事業「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」は、平成20年10月に続く2回目の普及啓発イベントでした。平成21年6月に新販売制度が施行されたのを受け、前回に引き続き来場した一般消費者に対して新販売制度の認知状況やOTC医薬品に関する意識調査を行いました。その結果の概要（抜粋）は以下のとおりです。

この調査は、（財）一般用医薬品セルフメディケーション振興財団の「平成21年啓発事業等助成金」を受けて、東京薬科大学一般用医薬品学教室の渡辺謹三教授、成井浩二助教が実施されたものです。関係者の皆様にここにあらためて感謝申し上げます。

アンケートの概要

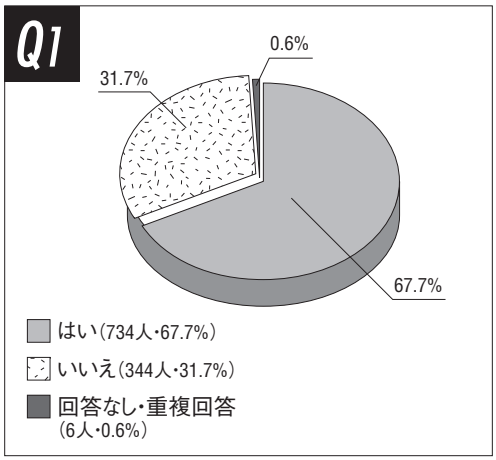
来場者推定2万人以上に1,106枚の調査用紙を配布し、1,084枚回収した。

質問事項

Q 1～Q 6　新販売制度について
Q 7～Q10　セルフメディケーションに対する意識調査
Q11～Q17　薬局・薬店での購入や相談について
Q18　自由意見

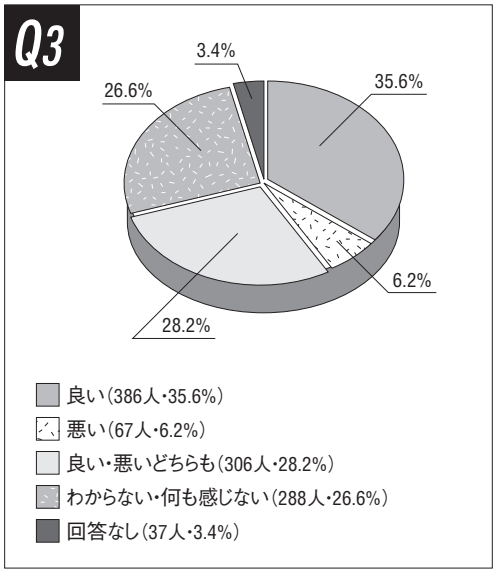
なお、回答者の構成は男性448人（41.3%）、女性580人（53.5%）、無回答56人（5.4%）でした。年齢、職業、住まいについても聞いていますが、ページ数の関係で省略しています。

Q1 今年（平成21年）の6月からOTC医薬品の販売制度が変わったことをご存じですか？
1. はい　2. いいえ



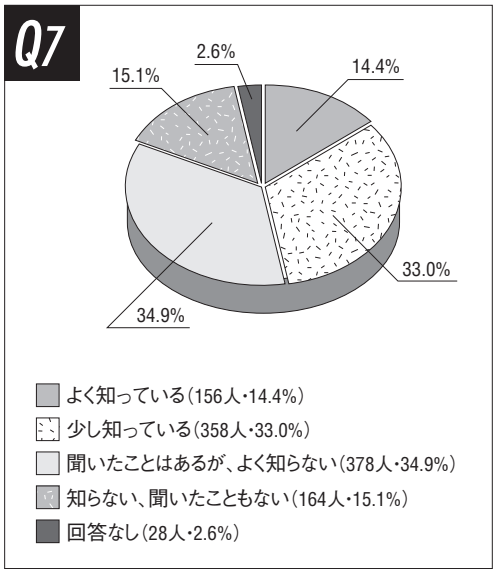
平成20年度調査で同様な質問に、（はい）の回答は23.6%、（いいえ）が76.2%であり、販売制度の変更について理解が高まっている。

Q3 今年（平成21年）の6月からOTC医薬品の販売方法が変わった感想は？
1. 良い　2. 悪い
3. 良い・悪いどちらも
4. わからない・何も感じない



Q7 『セルフメディケーション』という言葉の意味を知っていますか？

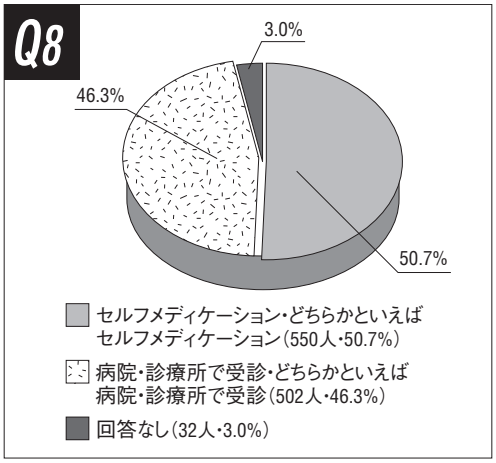
1．よく知っている　2．少し知っている
3．聞いたことはあるが、よく知らない
4．知らない、聞いたこともない



前回の調査で38.1%が「よく知っている」「少し知っている」であったが今回の調査では47.4%に増加していた。

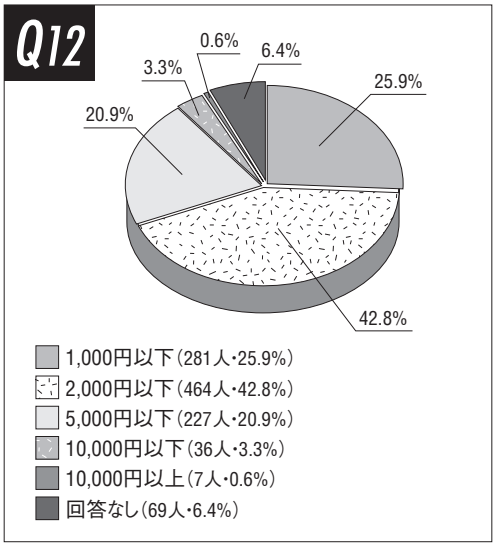
Q8 あなたは軽い病気、ケガのとき、セルフメディケーションを活用しますか、それとも病院・診療所で受診しますか？

1．セルフメディケーション・どちらかといえばセルフメディケーション
2．病院・診療所で受診・どちらかといえば病院・診療所で受診



Q12 あなたがOTC医薬品購入費などセルフメディケーションにかけてもよいと思う1カ月あたりの費用の上限はいくらですか？

1．1,000円以下　　2．2,000円以下
3．5,000円以下　　4．10,000円以下
5．10,000円以上



第10回 JAPAN ドラッグストアショー

“ドラッグストア新時代”

～生活提案でセルフメディケーションの推進、健康で美しいあなたに～

10回目を迎えたJAPANドラッグストアショーは3月12日（金）～14日（日）に千葉幕張メッセコンベンションホールで開催されました。“ドラッグストア新時代”～生活提案でセルフメディケーションの推進、健康で美しいあなたに～をテーマに昨年6月の販売制度の施行を契機に、一般用医薬品等によるセルフメディケーションのさらなる展開に向けて新製品の紹介やセミナー等が行われました。入場者数は例年以上の128,911人に上りました（第9回は126,412人）。家庭薬メーカーは全家協展示ブースに8社が共同出展したほか個別に15社が出展しました。

（事務局記）

全家協共同ブース出展会社

（8社／50音順）

㈱カイゲン、㈱金冠堂、三宝製薬㈱、翠松堂製薬㈱、丹平製薬㈱、㈱山崎帝國堂、わかもと製薬㈱、ワダカルシウム製薬㈱

委員会だより

総務委員会

委員長　太田　美明
（株式会社太田胃散　社長）

3月29日（月）開催の委員会で長年ご指導をいただきました牧田前委員長から辞任の申出があり、後任として4月8日（木）開催の委員会における平成22年度事業計画および新年度予算編成の審議から委員長に就任致しました。総務委員会は当組合の事業計画案・予算編成・事務局業務の適正化等幅広い分野を担当しています。組合員各位のご指導を賜り東家協の適切な運営に努めたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

総務委員会は3月29日（月）の平成21年度3回目の委員会で、①平成21年度予算の執行状況②平成21年度事業報告案③平成22年度予算編成方針について検討し、事務局原案どおり次回の理事会へ諮ることを決定し、賛助会員2社の申し込みについても了承し5月開催の総会準備のための理事会へ諮ることにしました。また、当組合が所有する家庭薬ビルが建設後50年を経過し、特に耐震性について懸念される状況にありますので「家庭薬ビル建替え等建物問題」について4月開催の理事会で審議することを決定しました。

4月8日（木）の平成22年度1回目の委員会から塩澤太朗氏を新委員として迎え、平成22年度事業計画案、予算編成方針に基づき作成された収支予算案ならびに賦課金および徴収方法や第63回通常総会議案等について検討し、5月開催の理事会へ提案することを決定しました。

また、「家庭薬ビル建替え等建物問題」については、家庭薬ビルは組合員各位の貴重な共有財産でありますので、本年度は委員会として建物の耐震性等安全性の確認や等価交換の可能性等について幅広く検討し、理事会で検討いただくことにしています。

薬事委員会

委員長　田岡　照朗
（株式会社龍角散　開発本部医薬課）

薬事委員会は、薬事、安全性等に関連して直面する諸問題について、関係団体と連携し、懸案事項の検討を行っています。

「小児へのかぜ薬、咳止め薬および鼻炎用内服薬の使用に対する注意喚起について」の事務連絡が昨年末、発出されました。それと同様に4月、英国でリン酸コデインの乱用にかかわる措置が実施されました。これを受け、当局より国内におけるリン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインに関する措置、注意喚起に関する連絡がありました。5団体で当局と協議の結果、鎮咳去痰薬でリン酸コデイン等を含有するすべての製剤の添付文書の「してはいけないこと」の項に「過量投与・長期連用をしないこと」を追記することおよび販売店への注意喚起を行いました。

また、欧州医薬品庁においてブフェキサマクによる接触性皮膚炎の評価の結果、欧州での承認取り消しが勧告されました。これを受け、日本でもブフェキサマク含有製剤の販売自粛、承認整理の措置が執られました。さらに、デキストロメトルファンの乱用問題等の情報があがってきています。

安全性情報に関しては、非常に重要視され、医薬品の安全性の問題が多くなって、しかも海外での情報も注視していかなければなりません。

使用上の注意記載要領改訂は、4月15日に当

局へ提出しました。今後はJSMIが中心となり、OTC 5団体と、厚労省安全対策課・PMDA安全部と検討を重ねていき、今秋位にまとまると推測します。また、全家協を通して日薬連等各委員会に委員を派遣しています。その時々の問題に対して意見を述べています。薬制委員会、安全性委員会の他に、その内容について紹介します。

●日局改正プロジェクト

第16改正日本薬局方の改正が進んでいます。製剤総則改正に関する運用上の問題等に検討が行われています。

●規制緩和検討部会

各団体より要望案を検討します。最近では診断薬のOTC化等の要望を出しています。

●品質委員会

GQP・GMP研究会の運営、最近の品質問題を討議しています。最近では「コンピュータ化システム適正管理ガイドライン」等を作成しています。

●安全使用推進部会

包装等の問題に対し検討を行っています。

薬事関連事項は医薬品メーカー共通の課題です。薬事委員会にできるだけ多くの方々にご参加いただき、多面的に協議していき、活動を活発にしていきたいと思います。

GMP委員会

委員長　池上　進
（救心製薬株式会社　常務取締役）

1．委員会活動について

本会員の皆様におかれましては業許可更新も完了し、5年後の更新に向けGQP、GMPの充実を図るため種々の計画をされていると思います。既に皆様にはご案内が届いていると思いますが、東京都薬務課のご協力を得て更新時の査察等で指摘、指導事項になった事例を含めて説明会を開催します。恒例のGMP研修見学会は秋に実施する予定で調整しています。見学会のみならず、情報交換の場とし好評を博しています。

2．最近の動向

1）委員長交代：長江委員長→寺薗委員長へ（7月から）

2）日薬連品質委員会の22年度事業計画として下記の3項目が掲げられています。

①GQP省令およびGMP省令に係る業務の問題点等の検討を行い、行政機関との協議を通じて、各企業において円滑な品質保証業務が図られることに寄与する。

②GQP・GMPの相互研鑽を目的とした、医薬品GQP・GMP研究会（第30回）を当局の協力を得て開催する。

③GQP・GMPの適切な運用および科学技術水準の向上や国際化の進展に合わせたより高い品質保証業務を実現することに資するため、コンピューター化システム適正管理ガイドラインの周知徹底を図るとともに、GMP査察手法等の国際整合性確保に関する厚生労働科学研究に協力する。

3）第30回医薬品GQP・GMP研究会について
東京　10月27日（タワーホール船堀）
大阪　11月2日（国際交流センター）
富山　11月9日（タワー111スカイホール）

4）残留溶媒に関する日局通則の改正案について
通則で規定する方針は変わらないが、16局では行わないようです。

5）PIC/Sガイドラインの調査について
PIC/S加盟に向けた検討を行うこととし、PIC/SガイドラインとGMP省令、通知等とのギャップ分析を先行して進めていきます。

6）製造方法等の変更に関する検討について
アンケート調査の結果を踏まえて製造方法、試験方法等に分類し、検討しています。Q＆Aの形式にまとめ、当局と相談し了解を得て追加事例として発出するようです。

7）改正法施行に伴う経過措置等終了にあたっての対応について
みなしの製造販売業許可更新等については、本年3月31日までが期限で、簡易登録したMFの本登録申請が6月30日までに登録されていないものは、登録抹消予定です。また海外製造業者認定が更新されず、引き続き製造販売する場合は、他の製造所への一変が必要となります。

8）医療用原薬に係る定期適合性調査の取り扱

いについて

他の製造業者が行ったGMP適合調査結果通知書の写しおよび同一性を証明する書類を提出することで、省略できます。海外製造所においてはMFの国内管理人でよい。

流通委員会

委員長　赤阪　完一
（救心商事株式会社　常務取締役）

2009年度の薬業界は不況と改正薬事法に翻弄された1年でした。

ドラッグストア業界は長引く不況と改正薬事法に翻弄されながら、各社が独自の施策を具体化し、新たな成長戦略を描いた年でもありました。登録販売者制度の活用で当面の業績を維持しつつ、中長期的には薬剤師を核に医療分野の専門性強化で勝ち残る方向性を示しています。

大小のM&Aも活発に行われ、スケールメリットの追求の動きも加速しており、コンビニなどがOTC薬販売参入を試みる中で、業種・業態の枠組みを超え協業を開始する例もみられています。

このような厳しい、変化の大きな環境の中で、家庭薬業界の健全な発展を目指して流通委員会は下記のテーマに取り組みたいと思います。

(1) 一般用医薬品の新販売制度の対応（改正薬事法施行2年目）
(2) 家庭薬キャンペーンの実施（家庭薬の普及）
(3) 医薬品卸・ドラッグストア等の流通問題
(4) 一般用医薬品プロモーションコード
(5) 流通委員会（会員18社）の7月・1月開催（規約と運営方法）

厚生委員会

委員長　宇津　善博
（宇津救命丸株式会社　社長）

7月8日（木）、箱根「河鹿荘」において7月定例理事会終了後、18時から役員および組合員が参加し「組合懇親会」を開催しました。

第68回となる本年度の家庭薬軟式野球大会は13社14チームの参加申込があり、例年どおり、10月24日から4週にわたり各日曜日に、埼玉県和光市の東京薬業健保組合グラウンドで開催します。参加各チームの奮闘を期待します。

また、TKGC第21次第11回は5月28日に水海道カントリークラブで開催しました。次回は9月に箱根カントリー倶楽部で開催の予定です。

労務委員会

委員長　荒井　聡
（株式会社ツムラ　取締役人事部長）

労務委員会には、現在、秋山錠剤、浅田飴、イチジク製薬、太田胃散、河合製薬、救心製薬、金冠堂、東京甲子社、トクホン、養命酒製造、龍角散、わかもと製薬、ツムラの13社が加入しており、年4回（7月、9月、12月、3月）の定例会議を開催しています。定例会議には加入各社の労務担当者が出席し、労務管理上の諸問題や法改正が予定されているテーマなどを取り上げ、法改正の内容の確認や各社の対応方法等についての情報交換・検討などを行っています。

平成21年度は、労働基準法や育児介護休業法などの改正を控えて、法改正への対応などを中心に検討を行うとともに、国内でも感染が拡大した新型インフルエンザ流行への対応など、差し迫った事案についても情報交換を行いました。

定例会で取り上げられた主要なテーマは以下のとおりです。

7月度：改正労基法への対応について（時間外労働の割増率の引き上げ、代替休暇、時間単位年休等）
9月度：最近の人事労務施策、新型インフルエンザ流行への対応など＜合宿形式＞
12月度：賞与交渉に関する情報交換、改正労基法への各社の対応について
3月度：平成22年度春季労使交渉に関する情報交換、労働者派遣制度変更の動向について

今後も、最新で高度な関連知識の習得とともに、他社事例も含めた幅広い情報を得て、参加各社における問題を迅速に解決するべく、委員会を運営していきたいと考えています。

IT（情報技術）委員会

委員長　大泉　高明
（株式会社大和生物研究所　代表取締役社長）

前々代の委員長を拝命しておりましたが、4月より再度委員長を勤めさせていただくこととなりました。当時とはIT環境のみならず、世界情勢、国内情勢などに大きな変化があります。この激動の時代にふさわしい新しい視点を持って、委員会活動を行いたいと思います。さいわい、新たに強力なメンバーも加わりましたので、各位と力を合わせ、心機一転、組合発展のために頑張る所存です。

1．委員会活動の経緯

IT委員会は発足当初、組合のホームページを立ち上げ、維持管理することを目的にしていました。その当時はインターネット委員会という名称で、その後改称され今日に至っています。改称を機に当初のホームページ関連の活動に加えて、IT（情報技術）を活用して組合活動の活性化に資することを、業務目標に加えてきました。この間、当組合ホームページに「家庭薬ロングセラー物語」「おくすり検索システム」「くすり物知り横丁（ゲーム感覚の家庭薬啓発ページ）」「組合掲示板」などのコンテンツを加え、ホームページの充実を図りました。また加えて、全国家庭薬協議会用ホームページの企画および制作、大阪家庭薬協会との東西連携を促進してきました。最近では情報協業化委員会と連携して、「お取り寄せ薬局」システムの検討に関する業務の一部も担っています。

2．課題と今後の活動方針

IT委員会の運営にあたり、これまでの活動を総括するとともに、課題を整理し、今後の方針を決定していくこととしました。前述したとおり、当委員会は組合ホームページの立ち上げと、その後の維持管理を活動の中心としてきましたが、発足当時と比べてITを取り巻く、組合内外の環境が大きく変化しています。この際初心に立ち戻って、①組合におけるITとは何か②IT委員会ができることは何か③IT委員会が行うべきことは何か④IT委員会の存続の意義とは何か、についてもう一度各委員とともに考え、これを基に今後の活動方針を決めていくこととします。この中で他の委員会との連携・協働、委員会そのものの統廃合まで視野に入れて、提言を行いたいと考えています。

もとより委員会活動は組合の発展に資するものですが、各組合企業が単独で行えることに屋上屋を架しても意味がありません。企業単独ではできにくいこと、できないことを、組合活動を通じて実現することに本来の活動の意義があるものと考えます。ただ、活動の中心となる各委員はボランティアによる活動であり、自社での忙しい業務を裂いて協力していただいております。当委員会運営においては、組合活性化という基本目標に加えて、活動に参加いただく各委員の所属する会社、および委員ご本人に少しでも参加意義のある委員会活動を模索していきたいと考えています。

消費者対応委員会

委員長　堀口登志夫
（養命酒製造株式会社
　マーケティング部お客様相談室長）

この半年間における当委員会の活動としては、「消費者対応担当者研修会」ならびに「定例委員会」開催の2点があげられます。

1．第13回消費者対応担当者研修会

3月9日、東京薬業健保会館にて、当委員会の恒例の研修会となりました、消費者対応担当者研修会を、出席者数54名にて開催しました。

ご高承のとおり、昨年施行された新販売制度により、一般用医薬品を取り巻く環境は大きく変わり、消費者対応担当者の業務はより複雑化しています。さらに、医薬品の特性を理解しない、権利意識の強い消費者に対し、迅速かつ適切な対応が求められる担当者にとっては、常に強い緊張が強いられています。

今回の研修会は、こうした点も鑑み、消費者対応に携わる担当者にとって、日常業務の実務に即した、スキルアップを図れる内容となるよう企画しました。講師は、医薬品PLセンターの佐久間事務局長、大幸薬品株式会社品質保証部お客様相談係より伊藤雅文様を招聘し、ご講演をいただきました。また、情報協業化委員会の藤井委員長より、消費者対応業務に関連する「お取り寄せ相談薬局」の内容等に関して、お取り寄せを推進し、業績を伸ばしている企業の事例紹介を交えながら、家庭薬団体における協業化活動のメリットを中心にご講演いただきました。

佐久間事務局長には、今回が初めてのご講演となりましたが、PLセンターにおける業務活動をはじめ、企業の担当者における副作用苦情への対応等について、具体的な留意点を中心にご教示いただき、示唆に富んだ大変貴重なお話により、実務に非常に参考となりました。

伊藤様からは、大幸薬品様における安全性情報への対応を中心に、お客様対応業務全般についてご紹介いただくとともに、自社における個々の対応事例から学び得た管理者としての役割や企業としてのクレーム対応へのあり方等、具体的なノウハウも含めた意義深いお話を拝聴することができ、参加者には非常に有益な内容となりました。

なお、最後に、メンバー各社におけるお客様対応業務全般について、各社の対応体制（人員・時間等）やクレーム対応方法を中心に紹介しましたが、その後の情報交換会におきましても講師の皆様をはじめ委員と加盟各社様にて、引き続き活発な情報交換が行われ、非常に有意義な時間を共有することができました。

２．定例委員会

この半年間では、定例会を2回開催し、前述の研修会内容および平成22年度における当委員会の活動方針や会員各社による消費者対応業務全般における情報・意見交換、クレーム事例研究等を実施しました。

今年度の活動方針や活動内容は、5月に開催した委員会にて決定しましたが、基本的には、前年度の活動方針と活動内容を継続していくことにしました。具体的には、これまでと同様、①定例委員会の開催（臨時委員会および東西合同委員会を含む）②消費者対応担当者のスキルアップ③消費者対応担当者研修会の実施④大阪家庭薬協会消費者対応部会との情報交換および相互交流を掲げました。今年度につきましては、今後予定されています「使用上の注意」の改訂を鑑み、お客様相談室に与える影響や問題点、課題等について相互に情報共有を図りながら、問題提起や意見・情報交換を活発に行っていきたいと考えています。また、他の一般用医薬品業界団体との関係強化も必要なことと認識しています。

以上、当委員会としては、今後とも、メンバーで力を合わせ、定例委員会を中心とした活動を通して、さまざまな情報を収集・発信しながら、引き続き東家協加盟各会社全体の消費者対応のスキルアップを図るべく、積極的な活動を推進していきたいと考えています。どうぞ、このような主旨をご理解いただき、今後とも、ご支援、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

情報協業化委員会

委員長　藤井　隆太
（株式会社龍角散　社長）

当委員会の主な構成メンバーは若手経営者クラスで、戦略的思考により業界の未来策定と各施策の試行を実施しています。最近の検討状況は次のとおりです。

1）お取り寄せシステム

通信販売規制の経過措置が終了する平成23年6月を目標とし、既存配送ルートを活用した個店向け配送システムの構築を目指しています。既に一部メーカーによる試行は2年目に入っており、WEB上での店舗検索システムも試験運用段階です。配送店舗は現段階で約3,500店ですが、ボランタリーチェーンを中心とした新規店舗の追加も予定しています。

2）共同販促企画

国内では3回目となった共同販促企画ですが、今回は素早い対応とより強固なメーカー間連携を実現するため、試験的に委員会メンバーのうちから8社に限定しています。実施対象は東京都内を

中心に約40店を展開する㈱一本堂で、販促品セットの配布と機能訴求POPを伴った集合展示を4月の1カ月間実施しました。結果は、店頭消化数平均が前年比約300%を記録しました。店頭売価は一切変えず、しかも企画終了後も前年を大幅に上回る実績が続いており、新規ユーザーの獲得に成功しているものと見られます。これには店頭での訴求のほか、参加メーカーによる店長・薬剤師向け説明会も効果的であったと考えられます。企画終了後の報告会では、各店薬剤師による詳細なアンケート結果も参加メーカーに伝えられました。実施期間前後には業界誌をはじめ『日経産業新聞』に2回も関連記事が掲載されるなど、業界内外に家庭薬製品のポテンシャルの高さをアピールする結果となっています。

3）海外関係

大成功に終わった台湾での共同販促企画は第二弾を計画中で、前回の丁丁薬局・健康人生薬局に続き、新たな地域量販の追加も検討中です。全家協会長名での礼状も衛生署長に届き、日本の家庭薬メーカーによる台湾でのセルフメディケーション推進を評価しているとのことです。

8月には香港でのICMCM展示会に5回目となる共同出展を予定しており、台湾と同様の共同販促を実施すべく、対象量販本部訪問や、香港衛生署への訪問も計画中です。

広報広告委員会広告統計資料部会

部会長　間部　薫一
（株式会社金冠堂　専務取締役）

当部会の主な活動業務は広告統計資料の作成ですが、今日まで41年間の長きにわたり、委員の皆様の熱心なご協力の下に医薬品広告に関する資料を収集し、毎年1回編集・印刷を行い、会員および業界関係各社のお手元に配布させていただいております。

今までは雑誌ポジショニングチャート2009年（男女比率と中心年齢）の資料をビデオリサーチさんから提供していただいておりましたが、今年から諸般の事情にてご協力いただけなくなりましたので、委員の皆さんの手作りで完成させました。特に、ツムラの石田委員が中心となり、細かい作業にて完成していただき、感謝申し上げます。

おかげさまで、今年は昨年より1カ月ほど早い3月末に統計資料が完成し、4月の上旬に皆様方に配布ができました。ぜひご覧いただき、皆様のお役に立てていただければ幸甚でございます。また、17年6月から組合HP（ホームページ）の組合員専用情報掲示板を利用して、広告関連情報を載せていますが、今年の3月1日に新たに下記のとおり、差し替えさせていただきました。

1．2009年 日本の広告費
1）2009年　日本の広告費の概要
2）2009年　日本の総広告費
3）2009年　媒体別広告費

2．地上波デジタル放送
1）2009年12月地上デジタル放送網受信機器国内出荷実績
2）上記のグラフ

これからも当部会は、内容の一層の充実を目指して努力していく覚悟でございますので、皆様のご支援のほど、心からお願い申し上げます。

広報広告委員会広報誌部会

部会長　武藤　毅
（株式会社龍角散　マーケティング部長）

『かていやく』87号をお届けします。本号の特集企画は「健康情報が満載 ホームページがおもしろい!」です。パソコンのキーボードを叩くだけでいろいろな情報が入手可能な現在、各会員社様のホームページは、単なる商品情報の開示にとどまらず、健康や医薬品に関する「おもしろ情報」が満載でした。各会員社様のホームページへのお考えやお客様への思いやりの心が伝わってきて、拝見していて飽きることがありません。あまりにも内容が充実していたため、次回88号との2回シリーズでお届けすることとなりました。次回もご期待ください。

末筆となりましたが本号発刊にご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

速報

家庭薬ロングセラーの秘密

昔も今もこれからも“日本の元気”を守る家庭薬

全国の書店にて6月に発売

『家庭薬ロングセラーの秘密―昔も今もこれからも“日本の元気”を守る家庭薬』が薬事日報社より6月に発売されました。全国家庭薬協議会としては、本書の発刊が家庭薬の普及に寄与するとの考えから、商品情報や企業データの提供等に関する制作側の協力要請に応え、会員企業様へ協力をあおぐこととなりました。この場を借りて、ご協力いただいた会員企業様へお礼を申し上げます。

本書は第1章～第5章でまとめられ、通読することにより、家庭薬が数多くのロングセラー商品を生み出した秘密が理解できる内容になっています。

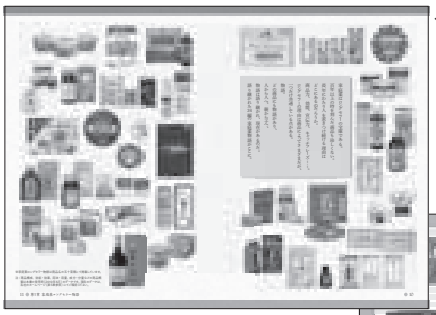
第1章の「家庭薬ロングセラー物語」では、34社のロングセラー商品が一般の方が読んでも興味をひく内容で紹介されています。第4章の「家庭薬の現代と未来」では、牧田潔明氏（全国家庭薬協議会会長）、堀正典氏（東京都家庭薬工業協同組合理事長）、柴田仁氏（大阪家庭薬協会会長）、藤井隆太氏（東京都家庭薬工業協同組合情報協業化委員会委員長）の4氏による座談会が、コラム形式でまとめられています。また、第5章の「家庭薬データ集」では、会員企業様の企業概要が掲載されています。

全国の書店にて販売されていますので、ぜひ手に取ってみてください。

Contents

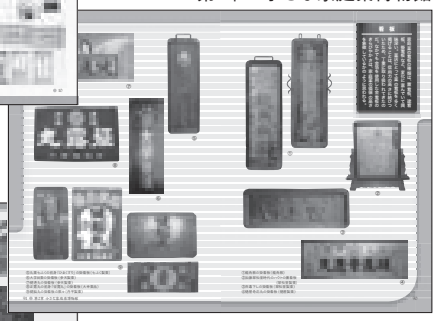
第1章　家庭薬ロングセラー物語
第2章　小さな家庭薬博物館
第3章　家庭薬歴史探訪
　　―家庭薬はいつの時代も暮らしの味方
第4章　家庭薬の現代と未来
第5章　家庭薬データ集

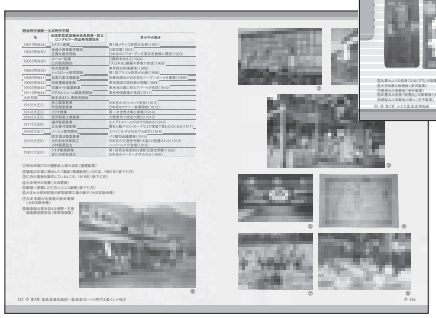
編著 ： 家庭薬研究会
協力 ： 全国家庭薬協議会
発行 ： 薬事日報社
制作 ： エニイクリエイティブ
定価 ： 2,000円（税込）
　　A5判　144ページ　フルカラー



◀第1章
家庭薬ロングセラー物語

▼第2章　小さな家庭薬博物館





▲第3章　家庭薬歴史探訪
―家庭薬はいつの時代も暮らしの味方

本書に関するお問い合わせは
下記まで

【問い合わせ先】
株式会社 エニイクリエイティブ
〒160-0004
東京都新宿区四谷1-3 望月ビル
TEL:03-3350-4657

事務局だより

●4月8日（木）

4月度理事会の終了後総務委員会が開催され、平成21年度事業報告案および平成22年度事業計画案等について第63回通常総会へ提案することを了承しました。この委員会をもって牧田委員長から太田委員長へ交替され、また塩澤理事が新たに総務委員に参画されました。

●4月21日（水）

日本OTC医薬品協会会議室でOTC医薬品5団体事務局の連絡会が開催されました。昨年11月に続く2回目の会合で、5団体それぞれの活動に関する5団体相互の情報の共有化等に関して協議しました。今後とも定期的に会合し効率的な情報交換のあり方等に関して協議を継続することを確認しました。

●5月21日（金）

第45回全家協定期総会がグランドヒル市ヶ谷で開催され、平成21年度事業報告、平成22年度事業計画が承認されました。また任期満了に伴う理事、監事選挙が行われ、その後の理事会で会長・副会長および常任理事が互選され、牧田会長が引き続き会長に選出される等、新たな執行部が発足しました。

●6月17日（木）

JR新宿駅西口イベント広場で開催予定のOTC医薬品普及啓発事業「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」の実行委員会が東京薬事協会会議室で開催され、日程を9月10日（金）～11日（土）としたほか、第3回を迎えるイベントの内容等を決定しました。引き続き6月28日（月）には出展予定企業向けの説明会を開催し、37社が出席しました。

●7月8日（木）

理事会に引き続き箱根湯本河鹿荘で組合懇親会が開催されました。役員、組合員および賛助会員が出席され、夜遅くまで今後の家庭薬メーカーのあり方等について熱心な議論が展開されました。

■訃報

当組合理事鈴木國之様（株式会社トクホン取締役相談役）には平成22年6月25日逝去され、7月2日東京都青山葬儀所において告別式が執り行われました。ここに生前のご功績に対し深謝いたしますともに、謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

昨年6月の改正薬事法施行から約1年が過ぎました。施行時は注目されましたが、経済全体の状況や、昨年はインフルエンザの感染拡大も重なって、少し具合が悪いとすぐに医療機関を受診する方も多く、家庭薬市場全体としては厳しい1年となりました。私どもとしては家庭薬市場の活性化に向けて、組合員の方々とも意見交換をしながらセルフメディケーションの正しい情報の発信等、様々努力していく所存ですのでご指導の程宜しくお願い致します。

（株式会社トクホン　堀口）

かていやく

通巻87号　2010年7月23日
編集人：東家協広報広告委員会広報誌部会
発行所：東京都家庭薬工業協同組合
〒104-0061東京都中央区銀座8-18-16
TEL 03-3543-1786　FAX 03-3546-2792
Eメールアドレス／tokakyo@tokakyo.or.jp
http://www.tokakyo.or.jp/